

「親子で行く平和行動 IN 広島」に参加して

八幡浜市職員労働組合 水本大幸

沙織・大志・昇志・佳志

『ひろしまのピカ』という本も『ほたるの墓』という映画も、戦争の映画も…  
小さい頃、ちょっと途中までは見たでしょうか？

正直、大人になってますます、あまり観る事が出来ずに過ごしてきました。

私もそんな感じだから、子供たちもおうちに絵本あっても開けることなく、うまく伝えていくこともできず。

今回、『親子で行く平和行動 IN 広島』に親子で参加させていただき、愛媛の各所に住む親子のみなさんと共に広島へ行く事になりました。

8月5日は全国から2000人ほどが原爆ドーム周辺に集まり、広島の市民ボランティアのみなさんから原爆の歴史を伝えていただきました。

当時は若い男の方はみな戦地へ行き、学生たちは労働に駆り出され、小学校の高学年の子供たちは疎開していたので、残っていたのは女の方ばかり。市内電車は女性が運転していたそうです。小学校には女の先生と低学年の子供たちがおりました。

そして、8月6日の8時15分、一瞬にして14万人の尊い命がなくなりました。

私もこうして真夏の爆心地周辺を、小さい子供たちを背負ったり手を引いて歩いたりしてみると、70年前の出来事が決して遠い世界の事ではないなと実感しました。

爆心地から1300メートル離れたところで被爆したアオギリ。翌年に新芽が生えて人々を勇気づけたそうです。



原爆投下から70年。現在、被爆した方たちは平均年齢が80歳を超えました。集会では80歳以上の実体験を語る方がお話されておりましたが、これからはどのようにして伝承をしていくかが課題です。広島の高校生の、歴史を伝えていく取り組みや姿勢が本当に素晴らしかったです。

今回行ってみて話を聞いてみて、戦争の歴史を知ることは、何が平和に繋がるかということを実際に考えるようになり、今を大切に生きることだなと思いました。



帰ったら驚いたことに、長男が自分から絵本を開いて、そしていろいろ質問をしてきました。次男は、「いけんのなあ」と。みんないろいろ感じるどころあったようです。

最後になりましたが、今回の平和行動中、小さい子どもばかりを連れてきていた私の家族を温かくサポートしていただきました皆様に感謝いたします。参加して本当に良かったです。ありがとうございました。親子共々、歴史学習に取り組み今後同じ事を繰り返さぬよう次の代に伝えていきたいと思います。